

# 講義ノートの取り方

—講義をどのように受けるのか？—

生活科学科 生活科学専攻

武田誠一

## § 0 講義を受講して…



- 板書してくれない…
- スライドが速くてメモできない…



## § 1 高校の授業と大学の講義の違い

	高校	大学
授業の進め方	板書中心	話すこと中心
授業と教科書	科目によって学習内容が決められている。 教科書に沿って授業が行われる。	教員が独自に授業を考え、教科書も指定する。 教科書に沿って授業が行うとは限らない。
板書の使い方	大事なポイントは先生が黒板に書いてくれる。	使わない教員もいる。



**大事なポイントは教員の「話の中」にある！**

## § 2 『講義ノートの取り方 アカデミック・スキルズ』 視聴



アカデミック・スキルズ

「講義ノートの取り方」佐藤 望（慶應義塾大学商学部）約 11 分 YouTube

(<https://www.youtube.com/watch?v=xrSBW8NLDaA>)





### §3 よいノートをとるために

1. いま何について話されているのか、を確認しながら話を聞く。
2. ノートに書きとめるべきことと、そうでないことを区別する。
3. もっかの話のキーワードと、その正確な意味に注意をはらう。
4. 話の流れに注意しながら聞く。
5. 分からなかったことは、必ず質問してハッキリさせる。

誰の考えを述べているか、区別する

教員が自分の論を述べているのか、ある考え方について説明しているのか、という違いに注意をはらう。

話の流れの変わり目に注意する

話の組み立てを考えながら聞くために、話の語調、その変化に注意する。  
いま話していることについて、話し手自身がどういう態度をとっているのか。  
それによって、話し方・語調も異なってくる。

- 他人の見解を紹介しているのか、それとも自分の主張を述べているのか。
- 話している内容を肯定して語っているのか、それとも否定的なスタンスで話しているのか。
- 大事なことから話しているのか、それとも補足する説明をしているのか。
- 大事なことの例を話しているのか、それとも大筋とは関係のないエピソードを語っているのか。

話の組み立てを抑えるには、話のつなぎ言葉に注意する。

- 「いいですか」 大事なことを言い始める
- 「まず第一に」 列挙を開始する
- 「というのも」 理由・根拠を言い始める
- 「他方」、「にもかかわらず」 対立・対照に注意をうながす
- 「そうしてみると」、「したがって」 帰結を述べる
- 「少なくとも」 話が成り立つ範囲を限定する
- 「仮に、………だとしたら」 ありえないことを想定した話をはじめ
- 「要するに」 要約する
- 「ちなみに」 少し細かい話に入る
- 「それは、さておき」 細かい話を切り上げて、話の本流にもどる

話の組み立てを考えながら、言葉に注意して聞く

話を聞きながら・話の構造（組み立て）をつかむ